

委員会報告

用語委員会報告 口腔衛生関連学術用語の統一に関する見解

千葉 逸朗^{1,2)} 尾崎 哲則^{1,3)} 加藤 一夫^{1,4)}
日野出大輔^{1,5)} 平田 幸夫^{1,6)} 葭原 明弘^{1,7)}

口腔衛生会誌 61 : 318-328, 2011

はじめに

公衆衛生, 口腔衛生, 予防歯科, 社会歯科関連の用語で, 教科書, 国家試験, モデル・コア・カリキュラム, 歯科医学教授要綱などにおいて表記方法に混乱が認められる。このような事態は, 学ぶ側の立場に立って考えると大きな混乱を招く。それだけではなく, 誤用したものがあたかも正しい使用方法であるかのようになることもある。そこで, 米満正美前理事長の意向を受けて用語委員会としての統一見解を公表することとした。

混乱した語句の使用状況の分類

単に語句の混乱といっても, その内容は多岐にわたる。そこで, 下記の通り分類した。

1) 漢字表記とひらがな表記

(例) 「齲蝕」と「う蝕」

教科書などでは「齲蝕」を使用するが多いが, 行政関連の調査等では「う蝕」と記載されている。また CBT でコンピュータを使用して学生が見る場合, 「齲蝕」であると字がつぶれる可能性があるとの指摘もある。

2) スペースの問題

(例) アルマアタ, アルマ・アタ, アルマ アタ
プライマリーヘルスケア, プライマリー・ヘルス・ケア, プライマリー ヘルス ケア

外来語によくみられるが, 単語と単語の間の処理にも混乱が認められる。「・」(いわゆるナカボツ) を入れ

る, 半角スペースを入れる, ハイフンを入れる, スペースなし等, さまざまである。議論のあるところであるが, 余計な記号, スペースを入れること自体が混乱の原因と考えられるため, ナカボツやスペース, ハイフンを入れないこととした。単語の区切りがわからなくなるといった意見もあるが, 少なくとも英語教育を受けてきている医療関係者, 歯学生であれば区切りがわからないということはないと思われる。

3) 新しい名称の出現

(例) *Actinobacillus*, *Aggregatibacter*

細菌の名称はしばしば変更がある。これはその都度あわせていくよりほかに方法はない。

4) 英語を日本語で発音する場合の問題

(例) キャンピロバクター, カンピロバクター

ヒドロキシアパタイト, ハイドロキシアパタイト

外来語をそのままカタカナで表記する場合も混乱がみられる。現状でより多く受け入れられている表記を選ぶように務めた。

5) 英語とするか日本語訳とするかの問題

(例) EBM, 科学的根拠に基づく医療

スケーリング, 歯石除去

スタンダードプレコーション, 標準予防策

一方を認めないというのは合理的ではなく, 両者を併記すべきであると解釈した。

6) フッ化物関連の用語

(例) 水道水のフッ素化, 水道水フッ化物濃度調整

¹⁾ 日本口腔衛生学会用語委員会

²⁾ 北海道医療大学

³⁾ 日本大学

⁴⁾ 愛知学院大学

⁵⁾ 徳島大学

⁶⁾ 神奈川歯科大学

⁷⁾ 新潟大学

フッ化物については飲料水から除去する場合、添加する場合など多岐にわたるため、本学会のフッ化物応用委員会の意見に従った。

7) 国家試験出題基準，歯科医学教授要綱，モデル・コア・カリキュラム間の混乱

1)～6)までの考え方によって結論を出した。したがって、たとえば国試出題基準に掲載されている表記でも「採用すべきでない」としたものもいくつか認められる。今後の議論を待つべきである。

以上の基準に基づいて、表に示した表記を本学会の統一見解とした。本表はすでに数年にわたって本学会の常任理事会、評議会、総会、学術大会で公表し、広く会員の意見を取り入れてきたものであり、おおかた統一見解であると思われる。100%の方に賛成していただくのは無理なことであり、あくまでも米満前理事長の意向を

受けて用語委員会としての見解を述べたものである。今後、本学会誌に投稿を予定されている会員はこの基準に基づいて「学会で採用すべき用語」で表記するよう留意していただきたい。決して排他的な考えで整理したものではないことを申し添える。関連学会等からも意見が出ると思われるが、統一は困難が予想される。

「理由」欄は本学会用語委員会委員、理事会役員、学会会員の方々のご意見を集約したものである。貴重なご意見をいただき、感謝申し上げたい。

今後、日本口腔衛生学会として用語集を編纂していく予定である。本表に掲載されていない語句で問題ありと思われるものがあれば、用語委員会までご連絡をいただきたい。

なお、参考文献については表に記載したので省略する。

表 未統一語句一覧

学会で採用すべき用語	根拠文献	併記すべき用語 1	併記すべき用語 2	採用すべきでない用語	理由
1 アウトカム	医薬研究者のための研究デザイン入門	イベント			
2 アルマアタ宣言	国試出題基準， 歯科医学会学術用語集			アルマ・アタ宣言（学会用語集等）	
3 一次医療圏				第一次医療圏	1) 厚生労働白書では二次医療圏という用語が使用されている。医療法には、一次医療圏という概念はないが、こちらが主流である。 2) 二次医療圏は医療法で、医療計画として病床規制を目的に設定されたもの、平成18年の大規模な医療法改正で、医療計画がその性質を変え医療圏についてのとらえ方は変わった。しかし、用語として二次医療圏はあり、それを構成する単位として一次医療圏という概念はある。老年歯科医学用語辞典（医歯薬出版、2008年）では「医療圏」を、一次、二次、三次医療圏として説明している。
4 インフォームドコンセント	国試出題基準， モデル・コア・カリ，学会用語集等：スタンダード社会歯科学第2版， 歯科医学会学術用語集			インフォームド・コンセント（学会用語集等：新予防歯科学第3版，NEW 予防医学・公衆衛生学）	日本医師会ではインフォームド・コンセントを主に使っている。

表 (つづき)

学会で採用すべき用語	根拠文献	併記すべき用語 1	併記すべき用語 2	採用すべきでない用語	理由
5 齲蝕, 齲菌	国試出題基準, 歯科医学会学術用語集	う蝕, う菌 (国試出題基準, 学校歯科保健, 歯科医学会学術用語集)			1) 学校保健安全法施行規則や施行令では, 口腔の疾病として齲蝕ではなく齲菌を用いている. CBTではう蝕を使用. 現行の国試出題基準ではう蝕より齲蝕の使用が主流(混在). 診療録及び診療報酬明細書では齲蝕症(疾患名). 2) 厚生労働省は, 医政局歯科保健課は歯科医師と歯科衛生士の国家試験出題基準で現在「齲蝕」を用い, 保険局医療課も現在「齲蝕」を用いている. しかし, 医政局歯科保健課所管の歯科疾患実態調査では「う蝕」を昭和32年当初より現在に至るまで用いている. また, 歯科保健施策の通知では「う蝕」を用いることが現在多い. いずれも公用語である.
6 う(齲)蝕発生[率]《罹患率》	歯科医学会学術用語集				
7 う(齲)蝕有病者率	歯科医学教授要綱, 歯科医学会学術用語集	う(齲)蝕有病率 (歯科医学会学術用語集)	う(齲)蝕被患率 (文部科学省学校保健統計調査)		1) 歯科で用いる罹患率という用語の意味をどう考えるか? (齲蝕経験? 齲蝕発生(病)?)年間の齲蝕発生数を人口で除したものか? DMFとの関係で言えば齲蝕経験はDMFのすべて. 齲蝕有病はDのみ. 齲蝕発生はある期間に発生したう蝕(発生したう蝕の状態は問わない)DMFのいずれもあり得る. 2) 歯科疾患実態調査では: 乳歯のう蝕有病者率(%)=(乳歯にう蝕のある者)/(被調査者数)×100, 永久歯のう蝕有病者率(%)=(永久歯にう蝕のある者)/(被調査者数)×100, 乳歯または永久歯のう蝕有病者率(%)=(乳歯または永久歯にう蝕のある者)/(被調査者数)×100 3) 齲蝕被患率は学校保健でDMFを含む有病率として取り扱われていることから, DMF者率と考えて宜しいのではないか. また, 齲蝕被患率は学校保健統計で用いられていることから, 原典が学校歯科保健統計の資料であれば, 齲蝕被患率を用いることもあるので, 採用すべきでない用語とするには疑問が残る. 一方, 齲蝕有病率にMFを含むか否かは議論の分かれるところである. 齲蝕有病者率がDMF者率かD者率かは使う人の目的に依存しているように思われる. DMF全体を見て有病率と考えたいところだが, この点については議論の余地がある. いずれにしても, 齲蝕被患率は齲蝕有病率とは異なる用語として捉えたほうが宜しいと思われる.

表 (つづき)

学会で採用すべき用語	根拠文献	併記すべき用語 1	併記すべき用語 2	採用すべきでない用語	理由
8 エンドポイント	今日の疫学	評価項目			
9 応招義務				応召義務	
10 横断研究	今日の疫学, 歯科医学会学会用語集	横断調査 (歯科医学会学会用語集), 断面調査			
11 外因性着色沈殿物		外因性沈着色素			
12 合併症, 併発症, 偶発症の使い分け					合併症 (complication) …ある病気が原因となって起こる別の病気. 併発症 (complication, concurrent disease) …手術や検査等の後, それらがもとになって起こることがある症候あるいは事象. 偶発症 (accidental symptom, procedural accident) …手術や検査等の際, 偶然に起こった症候あるいは事象で, 因果関係がないか, 不明なもの (日本歯科医学会).
13 患者対照研究	疫学辞典第 1 版, 歯科医学会学会用語集	症例対照研究 (同義語: 患者対照研究) (シンプル衛生公衆衛生学)	ケースコントロールスタディ	患者-対照研究, 症例-対照研究, ケース・コントロール・スタディ	
14 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	国試出題基準	感染症予防法		感染症の予防及び患者に対する医療に関する法律 (国試出題基準), 感染症新法	「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の略称として「感染症予防法」を使用 (総務省行政管理局法令データ提供システム).
15 カンピロバクター	歯科医学会学会用語集	カンピロバクターレクタス		キャンピロバクター (歯科医学教授要綱)	厚労省は, 発生件数が最も多い食中毒として, カンピロバクター食中毒を挙げ, 国民に注意を喚起している. カンピロバクターでよい.
16 危険度	疫学テキスト第 2 版	リスク (歯科医学会学会用語集)			
17 寄与危険度	歯科医学教授要綱, EBM・臨床疫学キーワード 150, 歯科医学会学会用語集	リスク差			
18 許容濃度	ステッドマン医学大辞典改訂第 5 版	曝露限界			
19 クオリティオブライフ	日本消化器がん検診学会用語集, 歯科医学会学会用語集			クオリティ オブ ライフ (国試出題基準), クオリティ・オブ・ライフ (学会用語集等)	

表 (つづき)

学会で採用すべき用語	根拠文献	併記すべき用語 1	併記すべき用語 2	採用すべきでない用語	理由
20 クリニカルパス	日本消化器がん 検診学会用語集, 歯科医学会学術 用語集	クリティカルパス			オペレーションリサーチの中の工程管理技法から派生したクリティカルパスを医療分野に応用したものをクリニカルパスといい、現在医療分野に用いる場合はこちらが一般的である。ただし、「地域連携クリティカルパス」は一般的に用いられている。医療法施行規則第1条の定める別表第一で、「地域連携クリティカルパス」と明記されている。
21 グルコースクリア ランステスト	歯科医学会学術 用語集			クリアランステスト	生化学辞典では、「クリアランス」とはある物質が血液から単位時間あたりに排泄、代謝などにより消失する量を血液体積として表現したものと説明しており、例としてp-アミノ馬尿酸クリアランスなど種々の物質のクリアランスが記載されている(生化学辞典第4版, 東京化学同人, 2007年)。それゆえ、略さず「グルコースクリアランステスト」とすべき。
22 系統誤差	医療・保健のた めの臨床統計	偏り			
23 系統抽出法	新予防歯科学第 3版	等間隔抽出法			
24 決断分析	ステッドマン医 学大辞典改訂第 5版	決定分析			
25 口腔清掃	文科省学術用語 集歯学編, 歯科 医学会学術用語 集	歯口清掃 (学会 用語集等)			
26 口臭の分類					宮崎らが発表(新潟歯学会雑誌, 29: 11-15, 1999)し、国際口臭学会(International Society of Breath Odor Research)の分類として認められた分類法を記載することが望ましい。分類法: 真性口臭症(生理的口臭, 口腔疾患由来の病的口臭, 全身疾患由来の病的口臭), 仮性口臭症, 口臭恐怖症
27 口唇口蓋裂と唇顎 口蓋裂				クレフト	今日の歯科医療 口腔外科的疾患治療の指針(昭和58年第1版, 第5刷)において、口唇口蓋裂(cleft lip and palate)とは口唇と口蓋に裂のみられるもの、唇顎口蓋裂(cleft lip, alveolus and palate)とは口唇・歯槽突起、軟口蓋に裂のみられるものとして、別に分類されている。
28 誤嚥性肺炎	歯科医学教授要 綱, 歯科医学会 学術用語集	吸引性肺炎(日 本内科学会内科 学用語集第4版, 日本胸部疾患学 会胸部疾患学用 語集)	嚥下性肺炎(日 本内科学会内科 学用語集第4版, 日本胸部疾患学 会胸部疾患学用 語集)	誤飲性肺炎	

表 (つづき)

学会で採用すべき用語	根拠文献	併記すべき用語 1	併記すべき用語 2	採用すべきでない用語	理由
29 コミュニティケア	広辞苑第5版	パブリック(ヘルス)ケア			地域社会で関連機関・施設との連携を図り、高齢者や障害者が地域で生活できるように援助すること。
30 歯間ブラシ	国試出題基準			インターデンタルブラシ	
31 歯垢	歯科医学会学術用語集	プラーク(歯科医学会学術用語集)	デンタルプラーク		広く行きわたっている用語については、併用すべきである(現状追認)。
32 歯石除去	文科省学術用語集歯学編、歯科医学会学術用語集	スケーリング(国試出題基準、歯科医学会学術用語集)			広く行きわたっている用語なので、併用すべきである(現状追認)。歯周病専門用語集(日本歯周病学会編)においても、スケーリングの同義語として歯石除去としているため、併用が望ましい。
33 児童の定義					児童福祉法の定義 児童とは、満18歳に満たない者(乳児+幼児+少年)なので児童福祉法では幼児は児童の一部、学校保健安全法では、幼児、児童、生徒及び学生は独立、重なりがない。統一不可。児童福祉法は児童を18歳未満とし、労働基準法、障害者自立支援医療等もこれを準用。厚労関係の法令はこれに基づいて児童は18歳未満の定義となっている。学校教育法で6歳から12歳を児童と定義。両省の法律がこうなっているので、このままでよい。
34 縦断研究	歯科医学教授要綱、歯科医学会学術用語集	経年(的)調査、前向きコホート調査、縦断[的]調査(医学統計学ハンドブック、歯科医学会学術用語集)			
35 出生(しゅっしょう)率	厚生労働省、広辞苑第5版			出生(しゅっせい)率	出生率は「しゅっしょうりつ」であって「しゅっせいりつ」とは言わない。「生まれること」ならどちらでも可。出生体重(しゅっせいたいじゅう、歯科医学会学術用語集)
36 障害者(児)	国試出題基準、学会用語集等：スタンダード社会歯科学第2版、歯科医学会学術用語集			障がい者(児)	漢字の熟語の一部をかなで表記する「まぜがき」には不自然さを感じる。「障害者自立支援法」「障害者基本法」などと表記されており、障害者(児)でよい。
37 小窩裂溝充填法	歯科医学教授要綱	予防充填法(文科省学術用語集歯学編、国試出題基準、モデル・コア・カリ)	窩溝充填法、フィッシャーシーラント、シーラント法		学術的には小窩裂溝充填法でよい。

表 (つづき)

学会で採用すべき用語	根拠文献	併記すべき用語 1	併記すべき用語 2	採用すべきでない用語	理由
38 侵襲性歯周炎(新)	新予防歯科学第3版, 歯科医学学会学術用語集			若年性歯周炎(旧)	1) 日本歯科医学会, 歯周病の診断と治療のガイドライン改定検討部会の報告書(平成19年10月12日)では, 「侵襲性歯周炎(急速(破壊性)歯周炎)は, 急速な歯周組織破壊(歯槽骨吸収, アタッチメントロス)と家族内発現を認めることを特徴とする」とあり, 若年性歯周炎, 急速進行性歯周炎, 特殊性歯周炎に分けられている. 2) 侵襲性歯周炎は1999年のAAPの分類にて定義された疾患名だが, 上記改訂部会で更に分類されるため, 関連語として別に若年性歯周炎を記載することが望ましい.
39 じん肺				塵肺[症](歯科医学会学術用語集)	「じん肺法」という法律があるので, ひらがなが正式である.
40 水道水フッ化物濃度調整	日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会	フロリデーション(学会用語集等: 新予防歯科学)		水道水フッ素化, 水道水フッ化物添加	今まで用いられてきた「水道水フッ素化」という用語は, 水道水をフッ素が含まれる化合物に変化させるという意味に解釈される可能性がある. また, 同様に用いられてきた「水道水フッ化物添加」は, 水道水に自然な状態では含まれていない薬物を添加・混入させる, との解釈につながりかねない.
41 スクリーニング	はじめて学ぶやさしい疫学一疫学への招待一, 歯科医学会学術用語集	ふるい分け	ふるい分け法		
42 スクロース	国試出題基準, 岩波理化学辞典第5版			シュクロース(学会用語集等)	
43 スタンダードプレコーション	国試出題基準, 日本救急医学会用語集, 歯科医学会学術用語集	標準予防策, Standard precautions (モデル・コア・カリ)			
44 切端, 切縁	歯科医学会学術用語集				切縁咬合とは言わない. 切縁と切端とは意味が異なる.
45 全数調査	シンプル衛生公衆衛生学	悉皆調査			
46 相対危険度	歯科医学教授要綱, EBM・臨床疫学キーワード150	リスク比			

表 (つづき)

学会で採用すべき用語	根拠文献	併記すべき用語 1	併記すべき用語 2	採用すべきでない用語	理由
47 第一次予防	学会用語集, 歯科医学会学術用語集	一次予防 (文科学術用語集歯学編)			歯科衛生士国家試験出題基準では第一次予防, 老年歯科医学用語辞典 (医歯薬出版, 2008年) では一次予防に第一次予防を併記など, 多くの書物で両方の用語が記載されている. それゆえ, 両方の用語を併記することが望ましい.
48 トータルヘルスプロモーション	歯科医学会学術用語集			トータル・ヘルス・プロモーション, トータルヘルス プロモーション, トータル・ヘルス・プロモーションプラン, トータルヘルスプロモーションプラン, トータルヘルス プロモーション プラン	
49 閉じた質問	スタンダード社会歯科学第2版	指示的質問, 閉鎖型質問, 閉じられた質問 (歯科医学会学術用語集)		クローズドクエスション (歯科医学会学術用語集)	
50 ニュールンベルク綱領	国試出題基準, 歯科医学会学術用語集			ニュールンベルク綱領 (スタンダード社会歯科学第2版)	
51 粘結剤		結合剤			日本歯磨工業会は粘結剤を使っている.
52 ハイリスクアプローチ	NEW 予防医学・公衆衛生学			高リスクアプローチ (健康日本21)	
53 ハイリスクストラテジー	国試出題基準, 歯科医学教授要綱, 学会用語集等: スタンダード社会歯科学第2版, 歯科医学会学術用語集			高リスクストラテジー (健康日本21)	
54 歯のフッ素症	国試出題基準, 学会用語集等: 新予防歯科学第3版, 歯科医学会学術用語集			歯牙フッ素症 (歯科医学会学術用語集), 斑状歯 (歯科医学会学術用語集)	すでに歯のフッ素症という用語に統一されている.
55 ヒドロキシアパタイト	文科学術用語集歯学編, 歯科医学会学術用語集			ハイドロキシアパタイト (国試出題基準)	確か, 国際純正応用化学連合 (IUPAC) の邦訳はヒドロキシアパタイト. hydroxy はヒドロキシにすることになっている (日本薬局方もヒドロキシ…という表現).

表 (つづき)

学会で採用すべき用語	根拠文献	併記すべき用語 1	併記すべき用語 2	採用すべきでない用語	理由
56 病原要因	疫学テキスト第2版, 歯科医学会学術用語集	病因 (歯科医学会学術用語集)			
57 費用効果分析	EBM・臨床疫学キーワード150, 歯科医学会学術用語集	費用-効果分析 (疫学辞典第1版)		費用対効果分析	
58 開かれた質問	スタンダード社会歯科学第2版, 歯科医学会学術用語集	焦点を当てる質問	開放型傾向の質問, 非指示的質問	開いた質問 (歯科医学会学術用語集), オープンエンデッドクエスション (歯科医学会学術用語集)	
59 敏感度	今日の疫学, 新予防歯科学第3版, 歯科医学会学術用語集	鋭敏度, 感度, sensitivity			
60 フォーンズ法	歯科医学会学術用語集	描円法			
61 フッ化物歯面塗布	国試出題基準	フッ化物溶液歯面塗布 (歯科医学会学術用語集)		フッ化物局所塗布 (学会用語集等), フッ化物塗布 (学会用語集等), フッ素塗布	日本歯科医学会「フッ化物応用についての総合的な見解」では, フッ化物歯面塗布を使用している。
62 フッ化物洗口(法)	歯科医学会学術用語集			フッ素洗口(法), 洗口法	「フッ素」は元素名であり, 英語の“fluorine”に対応し, 「フッ化物」および「フッ化物イオン」はそれぞれ“fluoride”と“fluoride ion”に対応する。フッ化物イオンが含まれる化合物を「フッ化物」と呼ぶ。自然界には一般的にこの形態で存在している。齲蝕予防に用いられるのは, これら無機化合物である。
63 プライマリヘルスケア	国試出題基準, 歯科医学会学術用語集			プライマリ・ヘルスケア, プライマリヘルスケア (学会用語集等, モデル・コア・カリ), プライマリ・ヘルスケア (歯科医学教授要綱), プライマリヘルスケア (国試出題基準), プライマリヘルスケア, プライマリ・ヘルス・ケア (日本国際保健医療学会用語集)	

表 (つづき)

学会で採用すべき用語	根拠文献	併記すべき用語 1	併記すべき用語 2	採用すべきでない用語	理由
64 プラセボ	臨床疫学 EBM 実践のための必須知識, 歯科医学会学術用語集	偽薬 (歯科医学会学術用語集)			
65 プラセボ効果	EBM・臨床疫学 キーワード150, しっかり学ぶ基礎からの疫学, 歯科医学会学術用語集	偽薬効果 (歯科医学会学術用語集)			
66 フラクトース	文科省学術用語集歯学編, 岩波理化学辞典第5版, 歯科医学会学術用語集			フラクトース (学会用語集等)	
67 バイロネラ	歯科医学教授要綱, 歯科医学会学術用語集	<i>Veillonella</i>		バイヨネラ, ヴェイロネラ	
68 ヘルスプロモーション	国試出題基準, 学会用語集等, 歯科医学教授要綱, モデル・コア・カリ, 歯科医学会学術用語集			ヘルス プロモーション, ヘルス・プロモーション, 健康増進づくり	
69 ポピュレーションアプローチ				集団アプローチ (健康日本21)	
70 ポピュレーションストラテジー	国試出題基準, 歯科医学教授要綱, 歯科医学会学術用語集			集団ストラテジー (健康日本21)	
71 前向きコホート研究	学会用語集等, 歯科医学会学術用語集		前向き研究 (はじめて学ぶやさしい疫学—疫学への招待—)	要因対照研究 (国試出題基準, 歯科医学会学術用語集)	要因対照研究は, 現在では前向きコホート研究が一般的になっているので, はずすべき.
72 慢性歯周炎 (新)		辺縁性歯周炎 (旧)	辺縁性歯周組織炎 (歯科医学会学術用語集)	成人性歯周炎 (旧)	1989年のAAPの分類にて定義された成人性歯周炎は1999年のAAPの分類にて慢性歯周炎に置き換えられている. 同義語として辺縁性歯周炎も記載することが望ましい.
73 ミュータンスレンサ球菌	学会用語集等: 新予防歯科学第3版	ストレプトコッカス・ミュータンス (歯科医学会学術用語集)	ミュータンス連鎖球菌	ミュータンス菌	ミュータンス連鎖球菌群はヒトの口腔内に検出されないものも含むので, 同義とはしない.
74 盲検化	疫学辞典第3版	マスク化			
75 雇入れ時健康診断	国試出題基準, 歯科医学会学術用語集			雇入れ時の健康診断 (学会用語集等)	雇入時の健康診断 (労働安全衛生規則)

表 (つづき)

学会で採用すべき用語	根拠文献	併記すべき用語 1	併記すべき用語 2	採用すべきでない用語	理由
76 リスクマーカー	疫学辞典第3版, 歯科医学会学会用語集	リスクインディケター (歯科医学会学会用語集)			
77 リスク要因	ステッドマン医学大辞典改訂第5版	リスクファクター (歯科医学会学会用語集)			
78 臨床疫学	EBM・臨床疫学キーワード150, 歯科医学会学会用語集	臨床研究 (歯科医学会学会用語集)			
79 <i>Aggregatibacter actinomycetemcomitans</i>		<i>Actinobacillus actinomycetemcomitans</i>	アグレガチバクター (歯科医学教授要綱)		1) 新しい分類は Norskov-Lauritsen et al. Int J Syst Evol Microbiol 56: 2135-2146, 2006. の論文にて提唱され, 現在認められて使用されている。しかし, 若年性歯周炎(侵襲性歯周炎)の病原細菌として多くの書物(歯周病の診断と治療の指針 2007 など)で旧名が用いられているため, 主として新名を記載し, 旧名を併記することが望ましい。 2) 正式には「 <i>Actinobacillus actinomycetemcomitans</i> , <i>Haemophilus aphrophilus</i> , <i>Haemophilus paraphrophilus</i> and <i>Haemophilus segnis</i> 」が「 <i>Aggregatibacter actinomycetemcomitans</i> , <i>Aggregatibacter aphrophilus</i> , <i>Aggregatibacter paraphrophilus</i> and <i>Aggregatibacter segnis</i> 」に再分類されたことに基づくもの。
80 D 歯率 (あるいは F 歯率, M 歯率)					D 歯率をどう考えるか? 「新予防歯科学第3版」では D 歯率 = D 歯数 / (総被検歯数 + 喪失歯) × 100 と, D 歯率 = D 歯数 / DMF 歯の合計 × 100 の両者が掲載されている。D 歯率は状況によって, 被検歯数分の D 歯数の割合であったり, DMF 歯数分の D 歯数の割合を意味することがあるようだ。これはあくまでこの用語を用いる状況で異なることから, D 歯率の用語だけに分母の概念を含ませることが問題の発端になっている。D 歯率を定義する場合には分母が何かを明確にした使い方をすべきであることを考えると, D 歯率の用語だけでいずれかを示すという考え方自体が言葉の遊びであり, そのような概念を定義付けることは混乱を招く要因になると思われる。
81 EBM	国試出題基準, モデル・コア・カリ, 歯科医学会学会用語集	科学的根拠に基づいた医療 (モデル・コア・カリ)	根拠に基づいた医療 (国試出題基準, 歯科医学会学会用語集)	エビデンスに基づいた医療 (国試出題基準, 歯科医学会学会用語集)	